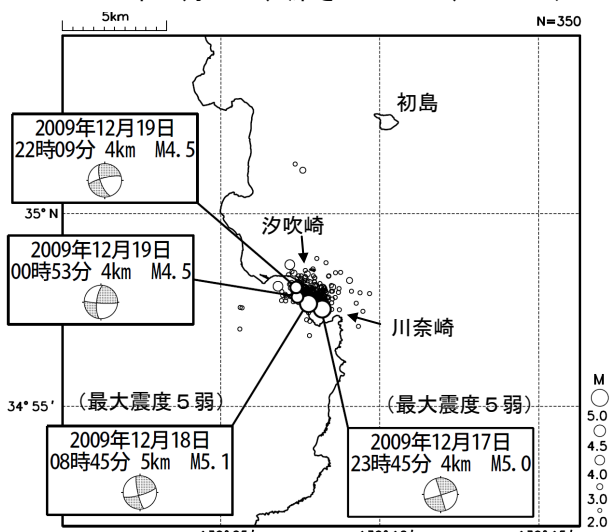


伊豆半島東方沖の地震活動

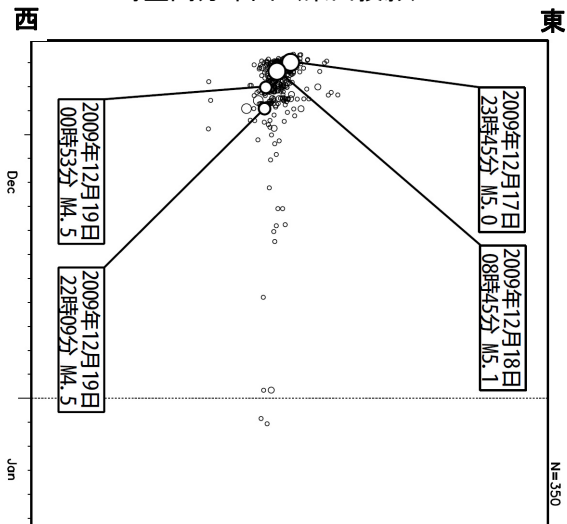
群発型の地震活動、横ずれ断層型、M5.0 と M5.1、共に最大震度 5 弱

震央分布図 (2009年12月17日12時～2010年1月5日、深さ0～10km、M≥2.0)



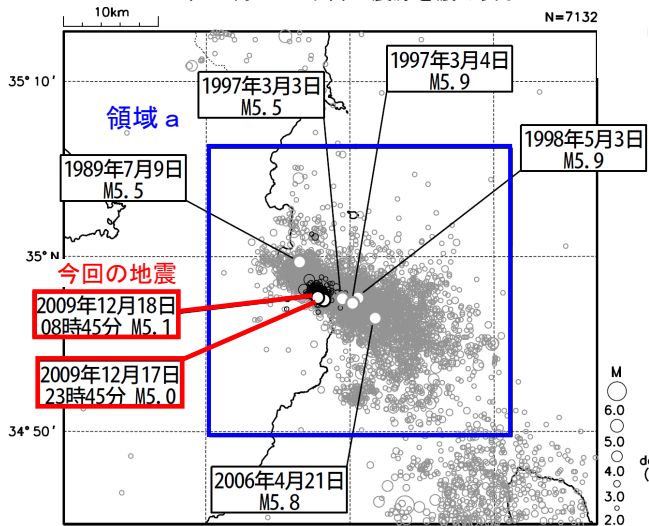
(M4.5以上の地震にコメントを付した)

時空間分布図 (東西投影)



震央分布図 (1983年1月1日～2010年1月5日、深さ0～25km、M≥2.0)

2009年12月17日以降の震源を濃く表示

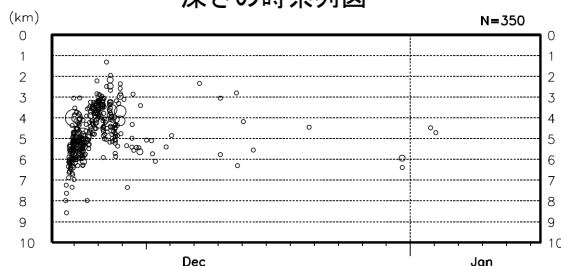


(今回の M5.0 以上と過去の M5.5 以上の地震にコメントを付した)

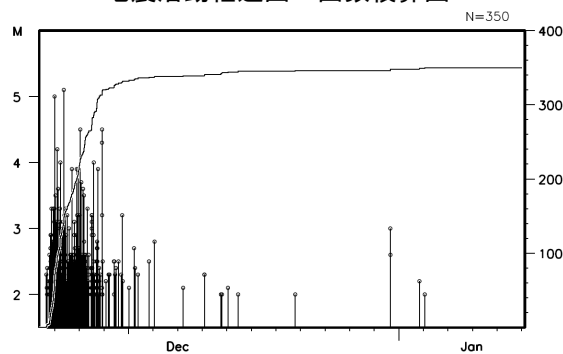
2009年12月17日から伊豆半島東方沖で地震活動が始まり、17日23時45分のM5.0、18日08時45分のM5.1の地震 (今回の活動の最大) でそれぞれ震度5弱を観測した。これらの地震により負傷者7名、住家一部破損278棟などの被害が生じている (12月25日現在、総務省消防庁による)。

12月19日23時以降、地震活動は低下し、活動以前の状態に戻ってきている。最大地震をはじめ、多くの地震の発震機構は概ね北西-南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型で、従来からこの付近にみられるものと同様である。また、16日深夜から東伊豆の体積ひずみ計に縮み変化が観測された (期間中のひずみ変化の総量は約210ナノストレイン)。

深さの時系列図



地震活動経過図・回数積算図



伊豆半島東方沖 (領域 a) では、1978年以降、度々活発な地震活動が繰り返し発生しているが、1998年の活動の後には、今回の規模と同程度以上の活動の発生頻度は低下している。また、一連の活動でM5.0以上の地震が発生したのは2006年4月～5月の活動以来のことである。

領域 a 内の地震活動経過図・回数積算図

